

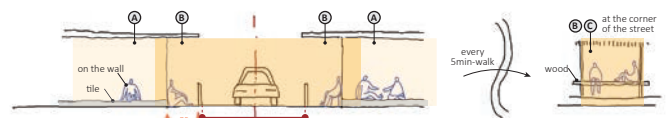
「座る」にみるインドネシアの「ご近所」

那須研究室 博士後期2年 新倉梨加

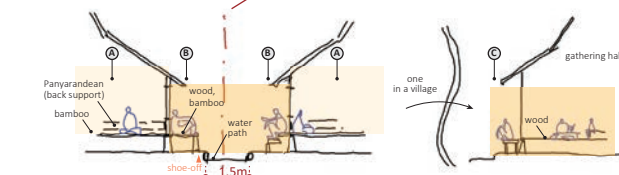
インドネシアの住居配置の特徴である並行二列型は、今回訪れた3つの島において、都市部や伝統住居のいずれにおいてもよくみられた。住居が向かい合って立ち並んでいるために、住人同士の付き合いは日常的に生じているようであったが、よくみると道幅や住居の開き方は場所によってさまざまであった。そしてその多様性は、人付き合いにとって欠かせない「居るための場所」すなわち座るしつらえによく合わられていると感じた。例えば閉じた集落である Kampung Naga では道に面して各家が縁側のような木製のベンチを持ち、日常的に気軽なやり取りが生じるような通りであったが、バリ島では現代及び伝統的街並みのいずれでも、住居は通りから塀で囲われるために通り沿いは壁つづきの様相で、その代わりにか街かどのいたるところに東屋があり、軒先ではなく地域の中に出かけて行って人と会うような距離感があった。またジョグジャカルタの伝統的街並みでは、家自体は通りに対して壁をむけて閉じつつ、軒下に造り付けの石のベンチを設けていた。気温が高い地域だったため私たちも一息つこうと腰かけたところ、石の表面のひんやりした感触が心地良く、その場所の気候に合わせた建築的なしつらえをみることもできた。地域ならではの「ご近所」の距離感や付き合い方があるが、共通してどんな場合も人は座りたいものである。そのため、座るしつらえをみればその場所の「ご近所」の在り方や人々の気質が垣間見えるように感じた。



Jakarta,
Urban
Kampung
/ W. Java



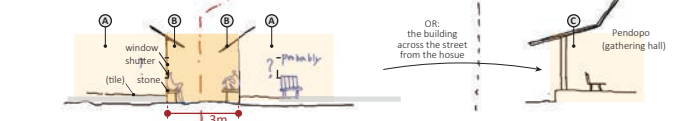
Kampung
Naga
/ W. Java



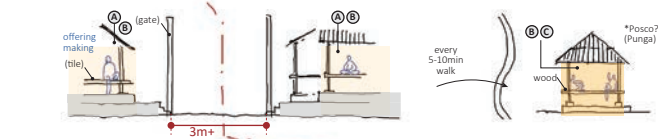
Bandung,
Urban
Kampung
/ W. Java



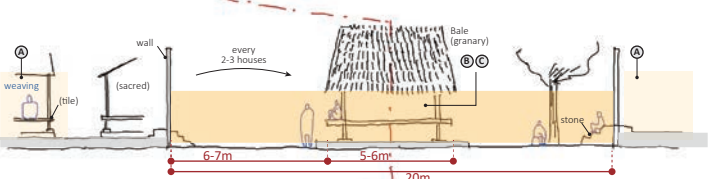
Yogyakarta,
Between
Two Gate
s/ C. Java



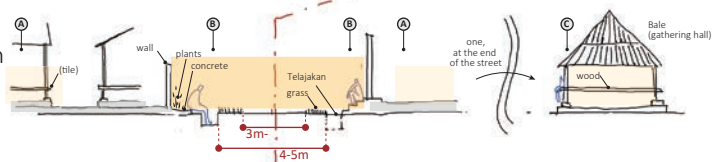
Ubud
/ Bali



Tenganan
/ Bali



Penglipuran
/ Bali



日常的な作業における床座とその補助具

那須研究室 修士2年 鈴木菜々花

インドネシアは、住居内で床に座る文化を有している。同じく古来より床座文化を有する日本では、座布団や座椅子といった座具を用いることで、床に座る際の姿勢の補助や腰を落ち着ける高さの調整が試みられてきた。そこで、インドネシアの床座文化の残る伝統的な住居でも、同様に多様な座り方の試行錯誤が見られるのではないかと考えた。我々は Kampung Naga, Waerebo village, Tenganan という3つの伝統集落に訪れ、日常的に行われる作業における座る姿勢やその周囲の状況を観察した。Kampung Nagaの住居のキッチンの脇やダイニングルームの壁の低部には部屋を囲うように板が取り付けられており、座ってくつろぐときにこの板に背を預ける様子が見られた。(Fig.1)。一方、Waerebo villageの住民は、基本的に胡座か片膝を立てて座るが、料理をするときには手造りの小さな椅子を使用していた (Fig.2, 3)。これらの椅子は座高 8~16cm と高さが多様で、住民の身体に合わせて造られていた。また、Waerebo village と Tenganan では、それぞれの住居で機織をする様子が観察できた。どちらも腰機だが、その作業が行われる場所や織機の部位など様々な点で差異が見られた。Waerebo village では機織が住居の床下で行われており、狭く暗い環境でありながら、住居の束や梁を上手く利用して作業の効率化が図られていた。一方で Tenganan の腰機は住居の半屋外の軒下空間に設置され、基壇に織機をひっかけるなどの工夫が見られた。インドネシアでも、地面や床の上で快適に座る方法が多様に見出されていた。

■食事の準備における床座姿勢の補助具



Fig.1 Kampung Naga



Fig.2, 3 Waerebo village



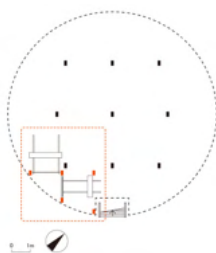
■腰機とその作業環境にみられた身体の拡張



Fig.4 Waerebo village



Fig.5 Tenganan



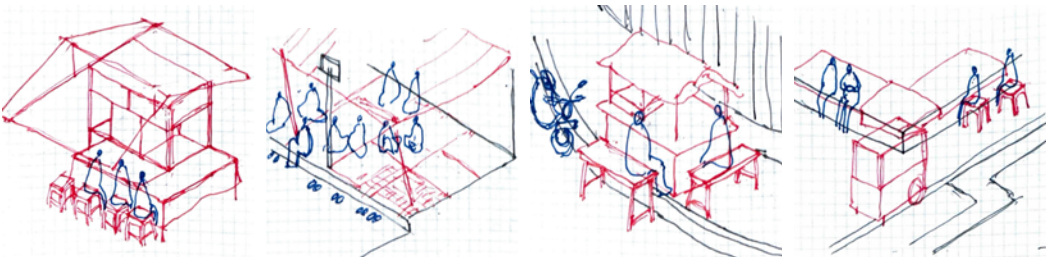
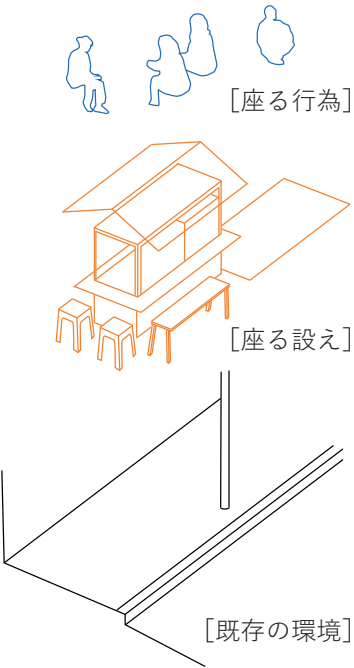
「座る」から見るインドネシア屋台食事文化

那須研究室 修士2年 松本勇生

今回訪れたインドネシアの都市では、飲食を伴った座る行為を多く観察することができた。その風景は非常に多様で、広場を占拠するような屋台区画から、商店街のように道路に沿って軒を連ねるもの、街角に突然現れるもの等があった。しかしいずれも座る場が整えられ、利用者は腰を下ろして食事を楽しんでいた。公共空間であるはずの路上に、仮設的に展開される設え（家具や道具、屋根や囲い等）を用いて場を作り、飲食を伴った「座る」行為があふれている。この特殊さをより深く検討することとした。

まず設えに注目する。さながら室内のレストランのように机・椅子・テーブルクロス・屋根まで提供する店舗（場面1）、路上に敷いた敷物を座る場として提供する店舗（場面2）、または道路の縁石による段差を解消するように高さの異なるベンチを並べる店舗（場面3）等があった。これら設えには店舗のオーナー等の提供者が存在していることが想像できた。次に人に注目する。植え込みの上に敷かれたシートを敷物として扱い上に座る利用者と、同様のシートをテーブルクロスとして扱いその前に別の椅子を用いて座る利用者が隣り合う場面（場面4）も見られた。利用者の場の解釈によって前述の提供された「座る設え」に「座る行為」が上塗りされたような場面とも解釈できた。

今回見られた風景は、日本人の食事風景と比較すると、異様と捉えられるかもしれない。しかし座る設えの背後には、提供者・利用者の飲食空間に対する認識、その認識を構成する無数の背景が広がっていることが理解できた。それによってインドネシアの屋台飲食における「座る」が決して特異な事例なのではなく、文化的・社会的背景を表象する現象であると結論付けた。



場面 1		場面 3		分解図
場面 2		場面 4		
1	2	3	4	

「座る」からみる宗教施設とその周辺の人の居場所としての可能性

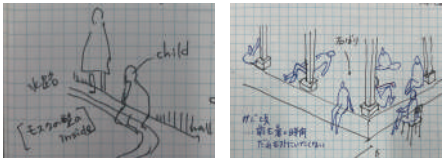
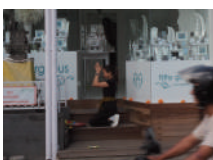
那須研究室 修士1年 西海天翔

日本では、宗教施設やその周辺は人の居場所になっていることがある。インドネシアのように宗教がより根付いている国では、都市において宗教施設やその周辺がより生活の一部に組み込まれ、お祈りの前後に人の居場所になっているのではないかという仮説をもった。そこで、Bandung の Grand Mosque of Bandung、Yogyakarta の Masjid Gedle Mataram Kotagede、Bali の Pura Taman Sari という3つの宗教施設とその周辺を調査した。

この調査を考察する視点として、私は「まちなかに座る意識」、「立地」、「物理的環境」、「生活サイクル」の4つがあると考えた。1つ目の「まちなかに座る意識」についてはインドネシアの都市の人々は総じて高いことがうかがえた。例えば、下の写真のように、ベンチのような座るためのしつらえに他にちょっとした段差や日陰、庇や何も無いスペースがあり、あらゆるところに人が座っている。2つ目から4つ目については下の表でまとめたように、各施設には座ることに適していそうなしつらえがたくさんある一方で、そもそも現代のインドネシアでは宗教施設でお祈りをするという習慣が薄れてきていることがわかった。

結論として、宗教施設やその周辺において仮説通りの光景は見られなかったが、そこが人の居場所となっている光景は散見されるとわかった。



	立地	物理的環境	生活サイクル	結果
	どのような周辺環境にありかまえをしているか？	宗教施設内外の物理環境のうち、人々がたまるきっかけになるものがあるか？	生活のなかで、宗教施設に来る行為がどの程度起こりライフスタイルと関わっているか？	
Bandung Grand Mosque of Bandung 訪問日 2024/6/10 18時ごろ (お祈り前)	モスクのまわりは前庭や、その周りのスペースがある。 	モスク内は祈りの空間の前にスペースがあり、靴を脱いでいるためくつろげる。外にも座れそうな段差がたくさんある。 	ITB の学生の話では、お祈りの際にわざわざモスクに行く人は減っている。(女性はほぼ行かないし、男性もマストである金曜のみ) また、もし行ってもすぐ帰り、その場にとどまることはあまりない。	座っている人は大量にみられたが、お祈りに関係している人は少なく、お祈り後にはすぐ帰ってしまう人も多い。
Yogyakarta Masjid Gedle Mataram Kotagede 訪問日 2024/6/13 12時ごろ (お祈り前)	周りは住宅街でありモスク周囲も壁で囲まれている。 	モスク内に伝統ジャワ建築のピロティがある。また周囲が壁に囲まれ日陰もたくさんある。 	現地の学生によると、インドとイスラムの影響を両方受けている。信者以外は中に入ることができない。	モスクの外では溜まっている人はいなかったが、中では老人たちが伝統的な建物の中で自由に過ごしている光景が観察できた。
Bali pura Taman Sari 訪問日 2024/6/21 10時ごろ	寺院自体は壁で囲まれているが、入れる建物もある。 	祭りの準備時に主に使われると思われるピロティがあり、椅子を持ってきたり段差に腰掛けて作業できる。 	普段は、家の中の寺院や仕事先でのお祈りが多い。催事の際には人が寺院に集まる。 	寺院まわりでいついている人はほとんどいない。祭り時は、多くの人が集まり作業をしながらおはなしを楽しんでいる。